

〇はじめに～なかよく 助け合う チーム名塩

名塩小学校は、地域とともに歩み、創立149年目を迎えるという輝かしい伝統をもつ学校です。

この特色ある校風を受け継ぎ、夢や志を抱き、『生きる力』を育む教育を目指したいです。

学校・家庭・地域が連携して、『社会に開かれた教育』を推進し、「チーム名塩」として全職員が仲良く助け合い、学校教育目標実現に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

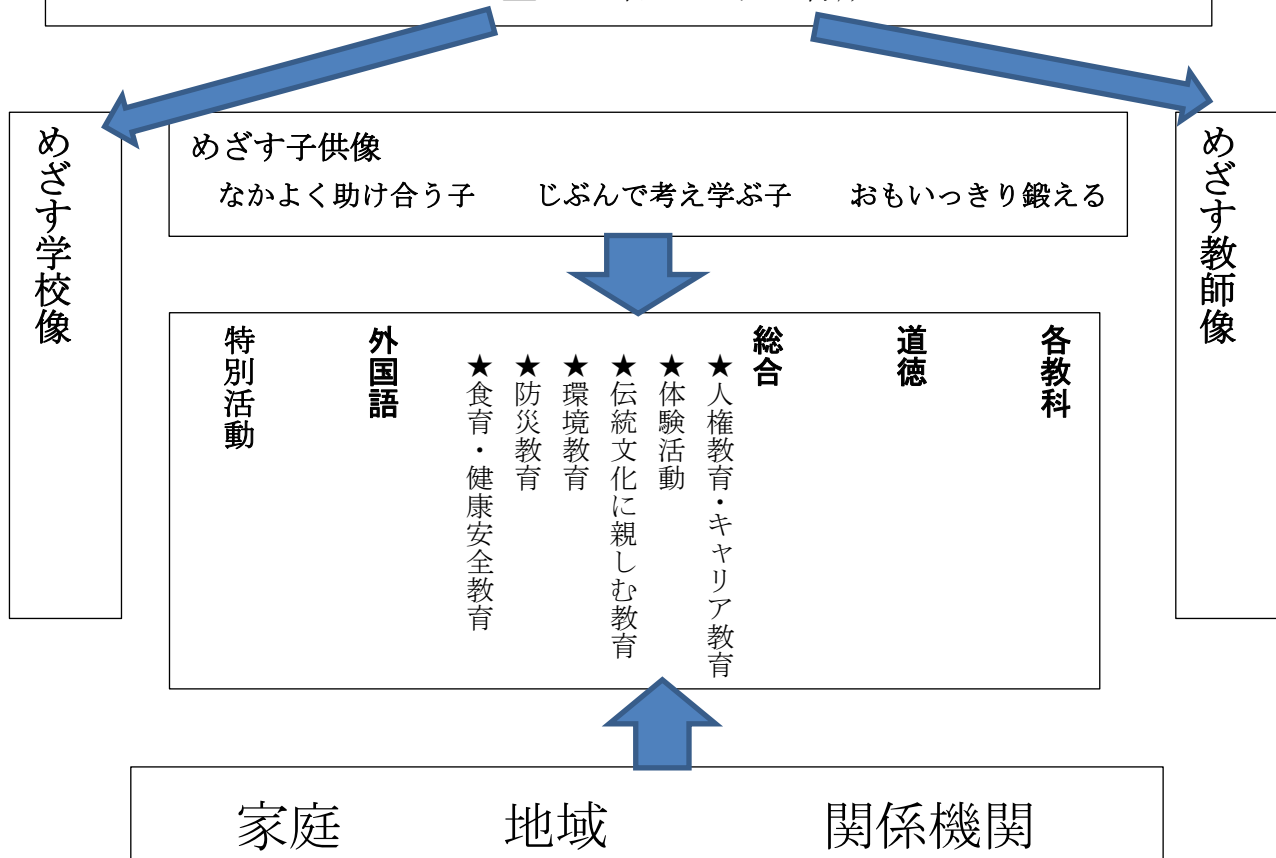
『なかよく助け合うクラス』は、ジグソーパズルのよう・・・

～どのピースにも意味がある どれか1つのピースでも欠ければ絵は完成しません～
とび出た部分は、得意なところ へこんだ部分は苦手なところ
みんなそれぞれに、得意なことと苦手なことがあります
苦手はことがあっても大丈夫
どんどん周りの人に、教えてもらったり助けてもらったりしましょう
そして、だれかが困っていたら、今度は自分が手助けしてお返ししましょう



1. 学校教育目標

人間尊重の精神に満ち、自ら学び、自ら考える力と、たくましく、心豊かな名塩の子の育成



『人間尊重の精神に満ち』とは

★人間が人間を尊重すること、相手の思考・気持ち・存在を尊重することです。子供達一人ひとりがお互いを認め合い、支え合う関係であることを願います。教職員も、誠意を尽くして自らの役割を果たし、ともに働く一人ひとりがお互いを信頼しあえる関係でありたいと思います。

『自ら学び、自ら考える力と、たくましく、心豊かな名塩の子の育成』とは

★『知・徳・体』の調和のとれた名塩の子供の育成を目指すことだと考えます。

～学校教育目標を実現するために～

＜めざす学校像＞

○子供にとって

- ・ 安心感と居場所のある学校
- ・ 好奇心に満ちた学習活動が十分に展開される学校

○保護者にとって

- ・ 子供の育ちのために連携し、信頼できる学校

○地域にとって

- ・ 地域と共に歩む開かれた学校

○教職員にとって

- ・ 『チーム名塩』の一員として、やりがいのある学校

＜めざす教師像＞

- ・ 児童に「確かな学力」を身に付けさせるための授業力向上に励む教師
- ・ 一人一人の児童を大切にし、「豊かな心」を育む愛情あるかかわりができる教師
- ・ 家庭・地域・関係諸機関との連携を図り、人々の願いに寄り添う教師

＜めざす児童像＞

○なかよく助け合う子

○じぶんで考え学ぶ子

○おもいっきり鍛える子

◆なかよく助け合う子

自分・他の人・もの・環境
に対して思いやりを持ち、
人と協力できる子

- ★あいさつ
- ★清掃・係活動

◆じぶんで考え学ぶ子

課題を解決するために
自分で考え学ぶ子
自分で判断し、表現・
行動できる子

- ★見開き自学

◆おもいっきり鍛える子

心身ともに健康な子
目標に向かって、忍耐
強く努力する子

- ★行事

2. 学校経営の基本方針

(1) 生徒指導の充実

- ・すべての子供に居場所のある学級づくりに努める。
- ・いじめを許さない学級風土を作り、いじめの早期発見・早期対応に努める。
- ・家庭と連携し、子供の基本的生活習慣の確立や問題行動の改善に努める。
- ・生徒指導上の諸問題については、迅速な報告・連絡・相談体制の徹底と、情報の共有化を図る。

(2) 学習指導の充実

- ・学習指導要領に基づき、教育課程を編成し、各教科の授業時数の確保に努める。また、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。
- ・子供に『生きる力』を育むため、知識・技能、思考・判断・表現力を身に付けさせる。
- ・問題解決能力やコミュニケーション能力を育てるため、児童の興味・関心を高める問題解決学習や豊かな体験活動を重視し、学び方を学ばせる。
- ・「わかる」「できる」「たのしい」授業が展開できるよう教材研究を行い、タブレットパソコンやデジタル教科書を含む教育機器を積極的に活用した授業改善を進める。(5・6年英語・図工：デジタル教科書)
- ・高学年においては、少人数指導やティームティーチング、教科担任制を取り入れ、きめ細かな指導を行い、学力向上を図る。
- ・評価の観点を意識しながら指導を行い、子供の学習状況を適宜評価し、必要に応じて支援を行う。
- ・学習習慣の定着、読書習慣の確立を図るため、家庭での学習課題を適切に設定すると共に、子供の学習状況について学校と家庭が共有する。
- ・研究テーマの実現、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業力向上を目指す。
- ・積極的に授業を公開し、互いの良さを学び合い、共に高まり合う教師集団づくりに努める。

(3) 道徳・人権教育の充実

- ・学校教育全体を通じて道徳教育を推進するとともに、身近な社会とのかかわりやつながりの中で、自己の生き方を見つめ、道徳性（道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度）を培うように努める。
- ・体験を通して『命の大切さ』を実感させる。また、具体的な関わり・交流を通して、他者の思いを共感的に理解する力を育てるよう努める。
- ・人間尊重の精神を培い、あらゆる人権課題に取り組もうとする意欲・実践力を養う。

(4) 特別活動の充実

- ・自主的、実践的な集団活動（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）を通して、人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
- ・夢や目標を持ち、自立した社会人・職業人として必要な能力を育むためのキャリア教育を推進する。
- ・キャリアノート及びキャリアパスポートの活用を図り、学習した記録を継続的に蓄積する。

(5) 保健・体育学習の充実

- ・養護教諭、学級担任等は相互に連携して、子供の心身の状況を把握し、心身の状況を的確に把握し健康に関する指導を適切に行う。
- ・子供に、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるため、給食指導・食育の推進を図る。
- ・運動の特性や魅力に触れさせ、スポーツの楽しさや、自ら体を動かすことの心地よさを実感させる。
- ・自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育てる。

(5) 特別支援教育の充実

- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、専門機関との連携・保護者との合意形成を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援の充実を図る。また、通級による指導においては、優先的に取り組むべき内容を設定し、学級担任が通級指導担当教員と十分な共通理解を図る。
- ・個々の子供に適切な指導・支援を行うため、コーディネーターを中心に、定期的に校内委員会を開いて点検、評価を行い、全教職員との共通理解を図る。
- ・通常学級とひまわり学級との交流学习を通じて、特別支援学級に在籍する児童の理解と啓発に努める。
- ・配慮を要する子への支援に努め、学級の中で誰もが活かされるインクルーシブな学校づくりを進める。

(6) 組織の活性化 家庭・地域との連携

- ・学級間、学年専科間、校務分掌間の連携を円滑にし、組織として協働できるよう、支え合う温かい職場集団づくりを目指す。
- ・情報の共有化、報告・連絡・相談の体制を確立する。
- ・コミュニティスクールを充実させ、家庭と地域と連携し『社会に開かれた教育』を目指す。
- ・自己評価、保護者評価を学校改善に生かし、保護者・地域に信頼される学校づくりを進める。

(7) 美しく安全な教育環境

- ・掲示板の活用、清掃指導などに努め、教育環境の整備に努める。
- ・多目的教室や少人数教室を効果的に利用する。
- ・施設、設備の安全点検を定期的に行い、安全で安心できる教育環境を作る。

(8) 教育公務員としての自覚と勤務時間の適正化

- ・体罰の禁止 ・交通事故の防止、飲酒運転等の禁止
- ・わいせつ行為、セクハラ行為、薬物使用等の非違行為の禁止
- ・個人情報管理の徹底
- ・自身の健康を第一に考え、ワークライフバランスの実現を目指す。
(時間厳守や定時退勤日の実施など)